

事務事業名	曲輪田地区有害鳥獣被害防止用電気柵設置支援事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6039									
			所属課室	農林振興課		課長名	野田栄志									
	☐ 実施計画事業		所属担当	農業振興担当		担当者名	塩谷大介									
基本政策	基本計画体系	にぎわいと活力あふれる都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政 策		安全な環境づくり	事業区分	01	一般	0	6	0	1	0	3	0	3	0	0	4
施策		生産を支える基盤の整備充実		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金												
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (20 ~ 22 年度)		法令根拠	市農業振興事業補助金交付要綱												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載。 ・「鳥獣被害防止特措法」を受け平成20年8月に「南アルプス市鳥獣被害防止計画」した。 この中で該地区の電気設置も盛り込まれた。(途中から) 平成19年度から平成22年度の3ヵ年事業で、年間1kmを整備し、概ね3kmで完成となる。 事業費は国の間接補助(55%以内)と受益者負担(補助算の10%)で、残りを市で補助するものである。平成22年度で最終年度となるが、今年度から補助金の交付基準が変わり、曲輪田地区の直接採択から、市を経由することとなった。			事業費の主な内訳 (22年度)												
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)						
				補助金		12,784										
							計		12,784							

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	設置工事の発注。設置済み箇所の維持管理
23年度活動予定	設置工事の発注。設置済み箇所の維持管理
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
地域内の農業従事者等	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
農作物への被害が減少する。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
農産物の安定した生産に繋がる (生産を支える基盤の整備充実)	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A 整備距離	km
I	
U	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A 受益戸数	戸
I	
U	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A 捕獲頭数	頭
I	
U	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
A 生産農業所得額(山梨県農林水産統計年報)	億円
I	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	6,204				
		県支出金	千円	337					
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	4,860	6,243				
		事業費計 (A)	千円	4,860	12,784	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1				
		延べ業務時間	時間	100	150				
		人件費計 (B)	千円	446	669	0	0	0	0
		(A) + (B)	千円	5,306	13,453	0	0	0	0
活動指標	アイウ	km	1.0	1.2					
	アイウ	戸	107.0	107.0					
対象指標	アイウ								
	アイウ	頭	1,132.0	1,090.0					
成果指標	アイウ								
	アイ	億円	52.0	52.0					

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	この事業は平成20年度からの国の補助事業であり、今年度が最終年度である。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	曲輪田地区はサルの果樹被害が多く、20年度、21年度で全体の2/3の事業が終了している。電柵設置の地域は果樹被害が減少しており、効果は上がっている。今後は、維持管理を適切に行っていけば、被害の軽減が図
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	地元住民からは、設置電柵を設置したことによって、果樹被害が減少したとの声がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている 【内容！】 ☒ 取り組みしていない 【理由！】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	平成22年度における国の補助額が減少見込みとなったため、今年度中の完成は100mほど足りなくなり、平成23年度まで事業が延長する見込みと成ったが、いち早い効果を出すには、今年度終了させる必要があり、残りの分については県の補助金をいただき事業を行うなど、状況に大路事業計画を見直している。
H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	曲輪田地区有害鳥獣被害防止用電気柵設置支援事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	-------------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 有害鳥獣から農作物の被害防止を図ることは、農家の生産意欲にもつながり、その結果、本市の農業振興につながることになる。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 曲輪田地区の農家にとってサルによる果樹被害は以前からの問題であり、被害を軽減させるためには、税金投入も必要である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 有害鳥獣の被害については、サルやカラスなど全域にわたってみられる。原状の施策だけでは、さらに被害面積が増加するおそれがある。このため、維持継続よりもより一層の対策を講じていく必要があり、事業の必要性を見直す必要はない。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 過去2年において事業を実施し、今年度が最終年度であるが、国の補助額が減少する見込みとなった。来年度完成と今年度完成とでは、被害防止に大きな違いが出るため、成果を向上させるため今年度県の補助金も活用し事業を完成させることとした。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 廃止した場合には曲輪田地区の電柵設置事業が途中までとなってしまうため、鳥獣被害の防止が図れないため、非常に影響がある。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 国からの補助事業で、過去2年においても事業を実施しているため廃止はできない。
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☐ 削減余地がない 【理由↓】 電柵設置の仕様や工法は過去2年の実績のある業者に委託予定であり、新たに契約業務を行うより経費が抑えられる。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 業務時間の削減については過去2年と同様、事務量も変化がないため削減はできない。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 曲輪田地区全域の対象となっており、農家だけでなく一般家庭に対しても被害の軽減が図れるため、受益者の偏りはない。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業は本年度で終了するが、電気柵の完成で事業が終了したものではなく、これからの維持管理により鳥獣被害が軽減できるかどうかにかかっている。地元の管理組合には維持管理の徹底を働きかける必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☒ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☐																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td>終了事業</td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td>終了事業</td></tr> </table>	成果優先度評価結果	終了事業	コスト削減優先度評価結果	終了事業																	
成果優先度評価結果	終了事業																					
コスト削減優先度評価結果	終了事業																					